

South Wind

港区 国際交流協会 Minato International Association

目次・Contents・目录

サウス・ウィンド編集スタッフ紹介:進藤 美由紀	2
South Wind Editorial Staff: Miyuki SHINDO	2
「南风」编辑人员之介绍:进藤 美由纪	2
신도 미유키	2
バンコク四方八方 (21) 微笑の国タイから~未来に伝えて生きたいこと	
All Directions of Bangkok (21) From Thailand— A Pleasant Country—A Message for the Future	4
曼谷的四面八方(21)来自微笑的国 - 传给未来「渴望生存下去」之记事	
時代のスピリッツ	6
Spirits of time	6
时代的烈酒	7
私たちの遺産	8
Our Legacy	8
我们的遗产	9
KIIH)E/	
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	10
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11 11
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない A letter from the U.S.A. (41) We must not make reading a thing of the past 美国来信(41)读书不应成为过时的东西	11 11 12
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11 11 12 12
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11 11 12 12 13
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11 11 12 12 13
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11 11 12 12 13 14 14
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11 11 12 12 13 14 14 15
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない A letter from the U.S.A. (41) We must not make reading a thing of the past	11 11 12 12 13 14 14 15
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11 11 12 12 13 14 14 15 17
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない A letter from the U.S.A. (41) We must not make reading a thing of the past. 美国来信(41)读书不应成为过时的东西 未来への遺産 A Heritage for Future Generations 未来的遗产 未来の遺産 The Heritage for the future 未来的遗产 おいしい国際交流 Japanese Cooking Program.	11 11 12 12 13 14 14 15 17 17
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない	11 11 12 12 13 14 14 15 17 17 18
スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない A letter from the U.S.A. (41) We must not make reading a thing of the past 美国来信(41)读书不应成为过时的东西 未来の遺産 未来的遗产 未来の遺産 未来の遺産 未来の遺産 未来の遺産 未来の遺産 未来の遺産 未来の遺産 未来的遗产 未来的遗产 未来的遗产 非来的遗产 非知過度 非常可能 和 lapanese Cooking Program 美味国际交流 美味国际交流 美味国际交流 美味国际交流	11 11 12 12 13 14 14 15 17 17 18 19

■ サウス・ウィンド編集スタッフ紹介 ■ South Wind Editorial Staff ■

■「南风|编辑人员之介绍 ■

進藤 美由紀

MIA のメンバーになって 7 年が過ぎた。語学の習得が大好き。ヨーロッパのシンガーの曲が好きだが、 最近は平原綾香、小田和正も聴いている。

意外なことに兄弟がいるように見えて、しっかり者と言われるが、実は一人っ子で甘えん坊。いつでもどこでも頼れる人を探す一面を持つ。MIAを通じて人との出会いが楽しくなったことが一番の収穫である。

MIA 活動:翻訳委員会、国別紹介、中高生の大使館訪問など。

Miyuki SHINDO

It's been seven years since I became a member of MIA. I love to study foreign languages and enjoy the music of European singers. Recently I've started listening to Japanese performers such as Ayaka Hirahara and Kazumasa Oda as well.

People seem to see me as strong, and assume I come from a big family. In fact, I am an only child and a little spoiled, so I tend to depend on others. The best thing I've gained from MIA is that I now enjoy being with people more.

Main activities in MIA: Translation Committee, Country Presentations, Embassy Visits with junior and senior high school students, etc.

[Translated by: Y. TSUKUDA]



进藤 美由纪

成为 MIA 的成员业已过了 7 年。非常喜欢学习外语。平时爱听欧洲歌手的歌曲,最近也开始迷上平原绫香、小田和正的歌。

看上去像有兄弟姐妹,人称稳健、踏实,但其实是个独生女且很娇气。性格中有不论何时何地都想找个可以依赖的人的一面。与他人的相遇变得非常快乐是其在 MIA 的最大收获。

在 MIA 的活动: 翻译委员会、各国介绍、初、高中学生的大使馆访问等。

[翻译:蔡海东]

신도 미유키

미아 (MIA) 멤버가 된지 벌써 7년이 지났네요.

제가 좋아하는 것은 어학공부랑 노래예요. 원래는 유럽 가수의 노래를 좋아하는데, 요즘에는 히라하라 아야카, 오다 카주마의 노래도 자주 듣고 있어요.

제가 의외로 형제가 있는 것처럼 보이는지, 착실해 보인다는 소리를 자주 듣고 있는 데, 실은 외동딸에다 어리광쟁이에요. 그래서 언제나 기댈수 있는 사람이 필요해요.

미아 (MIA) 를 통해 사람들과의 만남의 즐거움을 알게 되어 정말 기뻐요.

미아 (MIA) 활동: 번역위원회, 나라별 소개, 중고생의 대사관 방문 등.

[번역 : 조현철]

岩船 雅美

【2004年11月24日記】

未来に向けて伝えていきたいもの、僕の場合は異 文化との出会によって得た「感動」である。

時として、「感動」は人生を左右する。僕の場合は、一枚の写真との出会いによる感動が人生を方向づけた。それは、故澤田教一さんがベトナム戦争を撮影した写真、「安全への逃避(Flee to Safety)」だった。戦火から逃れようと、幼い子どもを連れて川を泳いで逃げる女性の写真だった。澤田教一さんは、青森県生まれの戦場カメラマン。1965年からベトナム戦争を撮影し、1970年にカンボジアでの取材中に射殺された。僕が「安全への逃避」を見たのは、1980年、僕は13歳で、澤田さんが亡くなった10年後のことである。

澤田さんが遺した戦場の様々な写真は、見る者の心を揺さぶる。ことに、「安全への逃避」は、まるで自分が戦場に身をおいているかのような衝撃を与える写真だ。戦争によって、一市民の生活や家庭、命が危険にさらされる現実を伝えてくれる。そして、危険な戦場に身をおいてこの写真を撮った澤田さん、という人間に僕は感動した。東北の小さな町で生まれ育った僕は、外国で働くことに漠然と憧れをいだいていた。澤田さんの存在は、「こんな人が現実にいる。夢は必ずかなう」という勇気をあたえてくれたのだ。その後、僕が国際NGOで働くようになりタイに赴任するようになったのは、「安全への逃避」から受けた感動が大きく影響している。

いまだ澤田さんほどの信念は持ちえてないけれ ど、いつか、僕も「感動を与えられる何か」を残し たいと思っている。

僕は、これからも、一生を通じて国際援助や異文化交流に取り組みたいと考えている。それは、異文化同士が出会う接点で新しい価値が生まれると信じているからである。この価値を、文章や映像で遺していきたい。それらが、新たな感動を生みだし、国際援助や異文化交流を更に進めていく原動力になることを願う。

タイに赴任する以前、MIA(港区国際交流協会)の LRJ(Let's Rediscover Japan)によく参加して、ゲストスピーカーの視点から日本文化を再発見することができた。それは、僕にとって日本文化の新しい側面の発見であり、異文化からの贈り物であった。

この7月から、僕は、イギリス人の女性から太極拳を習っている。彼女が英語で教えてくれる太極拳のレッスンは、ロジカルでわかりやすい。先生と生徒の関係も、ファーストネームで呼び合えるから親しみやすい。レッスンはいつも楽しい。バンコクで、太極拳という中国の文化を、英語文化を通して学ぶことは、ぞくぞくするほど面白いことだ。

こんな面白いことは、どんどん伝えて生きたい じゃないですか。

時間も超えて、ね!



All Directions of Bangkok (21) From Thailand—A Pleasant Country— A Message for the Future

Masami IWAFUNE

[November 24, 2004]

What I would like to hand to the future is, I suppose, deep emotion gained by the encounter of different cultures. Soul-stirring experience has the whip-hand over your life according to time and circumstances.

I can say that a photograph determined the course of my life. It was the one named "Flee to Safety" taken by the late Kyoichi Sawada. A woman and little children are swimming across the river trying to get out of the fire during the Vietnam War. Mr. Sawada was from Aomori prefecture and he was a war photographer. He started taking pictures of the Vietnam War in 1965 and was shot to death in Cambodia in 1970. I was thirteen years old when I saw "Flee to Safety" in 1980, ten years after Mr. Sawada's death.

Mr. Sawada's pictures from war are absolutely moving, above all "Flee to Safety." You may feel shocked as if you actually were on the spot. It gets the fact across to you that a war would infringe upon citizens' everyday lives, beloved homes and even existence itself. I was extremely touched by Mr. Sawada, who dared to throw himself into the front to take pictures.

I was born in a small town in the Tohoku District and indistinctly hankered after working in foreign countries. Mr. Sawada's picture encouraged me and made me realize, "This

sort of man actually existed. Dreams will come true." His photo influenced my later career of working for an International NGO in Thailand. I hope I will be able to leave "something touching" to the future, although still falling far behind Mr. Sawada's belief.

I would like to keep working on international aid or cross-cultural exchange all my life. I believe that new values will arise where different cultures come across. I want to leave these values to posterity through writings or pictures. I hope they will create new thought and give you fresh motivation for international aid and cross-cultural exchange.

Before I came to Thailand, I used to join the meetings called LRJ (Let's Rediscover Japan) in MIA (Minato International Association). I rediscovered Japanese culture from a participant's perspective. It was a new discovery like a gift from another culture. I'm learning taijiquan, a traditional Chinese martial art, from an English woman. The lessons, in English, are very casual as we call each other by our first names and they are also always very enjoyable. It is thrillingly exciting that we are in Bangkok, studying Chinese martial arts in English. Why not convey this excitement to everybody? At any time, I should think.

[Translated by: M. KAWASHIMA]





曼谷的四面八方(21)来自微笑的国 - 传给未来「渴望生存下去」之记事

岩船 雅美

[2004年11月24日]

我的情况是因由与异文化之相遇而获得之感动,而 想将此渴望生存下去之记留传给未来。

有时,人生会因受到触动心灵之感动而被左右。我的情况是由与一张相片之相遇而受到之感动,而决定了我的人生方向。那是从过逝泽田先生在越南战争中,拍下一张题名为「往安全之逃避」,从战火中逃生一位女性带著稚龄之子,游泳过河逃生女性的相片。泽田先生是青森县出生之战场摄影师。从1965拍摄了越南战争,1970在高棉的取材中被射杀了,我看到「往安全之逃生」是在1980年,我当时13岁泽田先生过逝10年後之事。

泽田先生所遗留下之战场中之各式各样的照片,打动了来场者之心灵活生生就好像置身於现场所受冲击。因战争传达出,小小市民之生活、家庭、生命、面临危险之现实。

并且我对将自己置於危险战场摄影之此人,非常感动我是出生於东北的一个小镇怀著在外国工作之漠然与向往。泽田先生之存在给人带来了,在现实中还有这种人,梦想毕竟能实现的。而後,我在国际 NGO 中工作,我想前往越南工作是受了「往安全之逃避」之感动,带给我很大影响。现在还没有到达泽田先生所

持有的信念,将来会有一天,我也想留下一些能带给 人们感动的一些作品。

我想从今以後,社会透过我的一生想参与国际援助与异文化交流之活动。我相信当异文化相会交流时,一定会产生出新的价值观。我要将此价值观遗留在文章中、相片上, 然後期望著其成为原动力、产生出新的感动、更促进国际援助及异文化之交流。

在前往泰国之前,常参加 MIA (港区国际交流协会) 之 LRJ (对日本之重新发现)。从演讲者之观点,对日 本文化有了新发现,对我来说新文化侧面的发现可说 是从异文化来的礼物。

前不久的7月,我向一位英国女性学习太极拳。她 用英语教我太极拳,用逻辑推理说明非常容易了解。 上课时一直都非常津津有味,老师与学生的关系,都 用名字互相称呼非常有亲切感,我只要想起在曼谷能 够用英语学习中国文化之太极拳,就兴奋不已的蠢蠢 欲动。

如此有趣之事在有生之年,想继续不断的传播下去。

超越时间。

[翻译:和氣 由季]

思いがけなく、国会議事堂に行く機会を得た。そして、感動した。いや、感涙してしまった。私を知る人間が聞けば、到底結びつかないようなところへ、友人に引っ張られ、たまたま行ったのが始まりである。「国会議事堂に行ってみない?なかなか行こうなんて思いつかないところだけど、これが結構面白いのよ。」「ふ~ん、そうなんだ」と、今思い返せば、なんとも気の抜けたお話である。

中央の塔を境にして、左側が衆議院、右側が参議 院。私たちは右側に入った。きっと、最初は小学校 の社会科見学の時のような気分だったと思う。

突然、目が醒める。何もかもが整然とした美しさを放ち、そこに存在しているのだ。68年以上もの間、美術館、博物館としてではなく、日常の場として存在していることに驚いた。例えば、参議院の玄関。聞いたこともないような日本各地の大理石が贅沢に床に敷き詰められている。山口県美祢市(みねし)産の「霞(かすみ)」、「薄雲(うすぐも)」および「黒霞(くろがすみ)」、壁には、山口県秋芳町秋吉(しゅうほうちょうあきよし)産の「鶉(うずら)」大理石と埼玉県皆野町(みなのまち)産の「貴

蛇紋(きじゃもん)」蛇紋岩。当時のセンス光る大 理石のネーミングにも溜息。徳島県阿南市産の「時 鳥(ほととぎす)」なんて洒落たものもあった。こ れだけの大理石を当時の方々は試行錯誤しながら、 デザインを考慮し、適材適所に選びに選んだに違 いない。そして、日本各地の産地の方々は、きっと 選ばれたことを誇りに思いつつ、産出されたに違い ない。私たちがよく知る一番高い中央塔の広間の床 にもまた、日本各地から届いた色とりどりの13種 類の大理石が優美なモザイク模様を作っており、そ の数約100万個。そのひとつ、ひとつに気の遠く なるような当時の人びとの誇りと職人魂が刻み込ま れ、17年もの歳月をかけて昭和11年に完成。聞 けば、隅から隅まで、その当時の日本の最高品質の 国産品のみを使用して出来たという国会議事堂。大 理石一つとっても、これだけの物語があるのだ。そ こにあるすべてが、溜息が出るような当時の日本人 の誇り、思い、芸術、文化の粋を集めた宝庫なのだっ た。鳥肌が立った。当時の人びとの息遣いが、見学 する私にも素直に伝わってくる、そんな場所だった。 清々しさと感動の面持ちで国会議事堂を後にした。

Spirits of time

Yuko YONEDA

Unexpectedly, I got a chance to visit the Diet building. I was touched deeply and was even moved to tears. People who know me well are probably wondering why a person like me would visit such a place. One day my friend invited me and she dragged me there, saying, "How about going to the Diet building? You might not think of going there, but it is really fun." I replied, "Huh, is that so?" …thus my visit began with idle chatter.

The center building is wedged between the Lower House and the Upper House and we went into the building on the right, the Upper House, first. It reminded me of a field trip when I was in elementary school.

And suddenly I opened my eyes wide. Everything there exists with methodical beauty. I was astonished to realize that this building has existed for more than 68 years, not as an art or other museum but as a building for regular use. For instance, the entrance to the Upper house building is paved with gorgeous marble stones from all over Japan whose names I'd never heard of: "kasumi" (mist), "usugumo" (pale clouds), "kuro-gasumi" (dark mist) from Mine City in Yamaguchi Prefecture and on the walls "uzura" (quail) from Shuho-cho Akiyoshi in Yamaguchi and "kijamon" (ser-

pentine) from Minano-machi in Saitama. The naming of those stones was also impressive. "Hototogisu" (cuculiform) from Anan City in Tokushima sounded witty. The people of that time probably tried to use the right materials in the right places. And I assume that the people who worked with those stones were proud to produce them for the occasion. The hall of the well-known center building is also decorated with 13 kinds of marble stones from all over Japan and it makes a beautiful mosaic. I was amazed to learn that it consists of about one million stones. Each stone carries the pride and soul of the craftsman, and the hall was completed in Showa 11 (1936) after 17 years of construction. The Diet building was made of the best quality genuine Japanese materials of the time. The marble stones there carry many stories and you can imagine it is a treasure house made with breathtaking Japanese pride, soul, art and culture. I could not help getting goose pimples. The breath of people of the time still exists there, and it came directly to me. I left the Diet building refreshed and with a great impression in my heart.

[Translated by: A. NONOGAKI]

米田 祐子

一个偶然的机会,去了国会议事堂。在那儿,深深地被感动了。啊,流出了激动的眼泪。如果向知道我的人打听一下的话,无论如何也想象不到,会拉着友人,到一处与自己根本毫不相干的地方。而且,这仅仅才是开始。「不去国会议事堂看看吗?想不出一定要去的理由,不过,说不定会很有趣哟。」「嗯,是吗」,现在回想起来,仅仅是无意之中的一句话。

以塔为中界,左侧为众议院,右侧是参议院。我们 自右而入。那一刻,使我回想起当初小学社会科学见 学时的那种情景。

突然间,眼前一亮。不知从哪里, 放射出整齐而 美丽的光芒。她的确存在那里。六十八年间,不是作 为美术馆、博物馆,而是为作为日常的场所为人所知 而吃了一惊。比如,参议院的门房,地面是由从来没 有听说过名字,来自日本各地的大理石所铺成。山口 县美祢市产「霞」、「薄云」以及「黑霞」; 墙吗,山 口县秋芳町秋吉产「鹑大」理石和崎玉县皆野町产「贵 蛇纹」岩石。真为当时光亮的大理石的命名而叹息不

已。也有德岛县阿南市产「小杜鹃」之类十分漂亮的 东西。当年,这些大理石一定是经历过无数次试作与 失败, 反复设计, 选了又选, 挑了又挑的。而且, 日 本被选中的各地,在出产的同时,也一定怀着无比地 骄傲和自豪。被大家所广泛熟知的中央最高塔,她的 地面也是从日本各地运来地, 颜色各式各样, 十三 种大理石加工而成的优美的马赛克所组成。足足有 100万块之多。一块一块的方石,凝聚着很久很久以前, 当时的人们的骄傲和工匠们的灵魂。历时17个春秋, 终于在昭和11年完工。如果随便打听一下的话,每 一处角落都知道, 这是当时日本最高质量的国产品建 成地国会议事堂。每一块大理石都有一个自己的故事。 这里的所有一切,是聚集着当时日本人令人惊叹的骄 傲、憧憬、艺术与文化的精粹的宝库。真是让人赞叹 不已。也是在这里, 当时的人们那种精神, 通过这次 见学深深地感染了我。在清爽感动的神色中, 我离开 了国会议事堂。

「翻译:张晓鸿】

港区国際交流協会「交流サロン」のご案内

隔月第三金曜日の夜、「交流サロン」を開いています。視野を広げたり、新しい友だちを作ったり、会話を楽しんだりしています。200円程度のスナック菓子をご持参の上、ご参加ください。詳細はお問い合わせ下さい。Tel. 03-3578-3530

2月18日、4月22日(金)午後6時30分~8時30分 港区役所9階914会議室

MIA Friendship Lounge - Let's talk over a cup of tea!

We welcome your attendance at our MIA Friendship Lounge. The Friendship Lounge is not a lecture or a classroom. Our main purpose is to enjoy chatting, exchanging views and making friends over a cup of coffee or tea. The 3rd Friday of every 2nd month is your time to participate in mutual understanding and communication between Japanese and non-Japanese residents. Feel free to visit the space and please bring a snack worth 200 yen with you. For details, please call MIA at: 03-3578-3530.

Feb. 18, April 22 (Fri.), 18:30-20:30 Minato City Hall 9h floor, #914

<u>交流社交室信息</u>

为了促进,外国人和日本人的交流,隔月第三个星期五晚上,以下时间举办交流社交室,届时请邀请朋友一起参加。参加者请携带 200 日元左右的小吃参加。详细的情况请打电话问询: Tel. 03-3578-3530

2月18日,4月22日(星期五)下午6:30-8:30于 港区区役所9层914会议室

【2004年11月24日】

あと1ヵ月余りで2005年を迎えようとしています。私たちが残していく遺産は、「日本語を大切にする」ことではないでしょうか?私自身、高校時代、ノルウェーでの交換留学プログラムの帰国後に戸惑ったことを覚えています。テレビで某番組を観ている時、言葉が省略して使われていることに驚いてしまいました。日常生活において、家庭や職場でも略語が多いのが現状です。母国語でありながら、意識しないと正しく使えないのでしょうか?

自分の職場では、電話での応対が多いのですが、 相手の方が見えないので、わかりやすく説明することが求められます。最近ではメールでの連絡が増えたのですが、一つ気づいたことがありました。文章の誤字・脱字が多いことです。話をする感覚で気軽に使えるのがメリットですが、キーボードをたたいて機械の変換に頼ってしまうため、見落とすことが多いようです。私も職場でメールを受信した際、戸惑ってしまうこともしばしばです。 実際に書くときは、考えながらペンを動かし、わからない漢字があったら辞書で調べます。パソコンの時代が到来してからは、書く機会が減りました。インターネットも普及し、読書をする人も減っていると聞きます。日本語を正しく使えないのは、寂しいことです。しかし、私はパソコンやインターネットを否定しているのではありません。パソコンと手書きや読書を使い分けていけば、バランスが取れるのではないでしょうか?

日本では、外国語を習得する人が増えています。 学生時代、正しい日本語を身につけていなければ外 国語をマスターすることが出来ないと聞いたことが あります。言葉の意味がわかっていなければ、互い に両者を翻訳することさえできないのです。初めに このことを聞いたとき理解に苦しみました。しかし、 最近になって日本語の大切さが少しずつわかってき ました。

私たちの役割は、言葉を大切にする心を次世代に 伝えていくことだと思います。お金では買えない大 きな遺産になると信じています。

Our Legacy

Miyuki SHINDO

[November 24, 2004]

There is little more than a month remaining in this year, and a new year—2005—will start very soon. If I think about what those of us who are now living should leave to posterity, it would be the message that we should treasure our Japanese language.

I remember being surprised when I returned home from an exchange program in Norway. As I watched a television program, I realized people were leaving out words as they spoke. We Japanese tend to speak in abbreviated ways whether we're talking at home or in the office. Japanese is our native language but unless we think about it consciously, we don't use it correctly.

In my job I often talk with people on the phone. Since I cannot see the facial expressions of the other person, I try to explain things clearly so I can be understood. We now use E-mail as a regular means of communication and I've noticed frequent typographical errors and omissions. E-mail is wonderful because it's almost as easy as speaking directly to someone, but mistakes are common because all we have to do to convert words into characters is hit the keyboard. I'm often confused by mails I receive at work.

When we actually write on paper, we move the pen with careful consideration. If we don't know how to write a character, we look it up in the dictionary. Since the arrival of the computer age, we have fewer opportunities to write by hand. I've heard that the number of people who read books has fallen since the Internet became widely available. It's sad that people can't use Japanese correctly.

But I am not criticizing computers or the Internet. I think we need to strike a balance between using computers and writing by hand and reading. In Japan, the number of people who study foreign languages is increasing. I have heard that people cannot master foreign languages if they didn't gain a solid understanding of Japanese during their university days. Unless we understand the precise meaning of a word, we cannot translate it into other languages. I had trouble understanding this when I first heard it, but recently I've come to appreciate the importance of Japanese.

I believe our role is to pass on to future generations a deep appreciation of our language. That is a priceless legacy.

[Translated by: Y. TSUKUDA]

我们的遗产

进藤 美由纪

[2004年11月24日]

还有一个多月,我们即将迎来 2005 年。我们该留给下一代的财产,不应是"重视日语"吗?我本人在高中时代参加了在挪威的交换留学工程,回国后发现了一些困惑不解的事。在观看某个电视节目时,令我大吃一惊的是,有些用语常常被省略使用。其实,日常生活中,如今在家庭和工作单位里也常常出现省略语。尽管是母语,但一不用心就无法正确使用了吗?我的工作单位,电话应对很多,由于对方不在眼前,更需要通俗易懂地进行说明。最近人们越来越多地使用电子邮件进行联系,我发现错字、漏字现象很严重。电子邮件的长处是能像交谈一样随意使用,但由于点击键盘,依靠电脑进行文字变换,看错的时候似乎很多。我也在工作时常常收到一些令人费解的电子邮件。

我们实际书写时,边考虑边动笔,遇到不会写的 汉字会查字典。但随着电脑时代的来临,书写的机会 越来越少,并且听说随着因特网的普及,读书的人也 越来越少。不能正确使用日语,是一件令人惋惜的事。 但我也并不是否定电脑和网络,如能将电脑、手写和 读书区别使用,岂不是能够协调完善了吗?

在日本,学习外语的人不断增加。在学生时代,我曾听说过,如不能正确使用日语,就无法掌握外语。因为如不理解语言的含意,又怎能相互翻译呢?当初听到这句话的时候,我觉得很难理解,但是最近渐渐地开始感到日语的重要性。

我们的责任是将重视语言这一精神留给下一代,我相信这是无法用金钱衡量的巨大遗产。

「翻译:蔡海东]



ノルウェーのベルゲン市 (1996年6月) Bergen, Norway (June, 1996)



スティーヴンス・はるみのアメリカ便り(41)読書を過去のものにしてはならない スティーヴンス・はるみ

【2004年11月13日】

1965年にアメリカ連邦議会によって設立され、独立した連邦政府機関として活動している全国芸術基金は、2004年9月にアトランタで開催されたアメリカ南東部文学雑誌と小規模出版物見本市での講義で、集まった聴衆に対して警告のメッセージを送りました。

この政府機関は十年に一度大規模な調査を行い アメリカ人がどのくらい頻繁に美術館や博物館、劇 場等に足を運んでいるのか、ジャズやオペラをどの くらい聴いているのか、小説、詩、演劇等の本をど のくらい読んでいるのか、などを調べています。ご く最近では2002年にその調査が行われました。そ の調査で、アメリカ人が芸術に触れる活動は最近 年々減る傾向にあり、特に読書はアメリカ人の間で 急激に減りつつある、という結果が出たというので す。1982年の調査では57パーセントの成人が過 去12ヵ月に何らかの文学を読んだ、と答えている のですが、2002年には過去12ヵ月に何らかの文学 を読んだのはたったの47パーセントでした。その 中でも若者の間で読書の減少率は最も顕著に現れて います。1982年に行われた調査では年齢 18歳から 24 歳までの若者の60パーセント近くが何らかの文 学を読んだ、と言っているのに対し、2002年には 文学を読んだと答えたのは43パーセントだけでし た。若者の層はこのように最も急激な減少を示して いますが、その他の層でも読書人口は明らかに減る 傾向を示しています。若者も高齢者も、黒人も白人 も、お金持ちも貧乏人も、大卒も高卒も、すべての 層でアメリカ人の読書離れが起きているのです。読 書はこのまま過去のものになってしまうのでしょう か?

この社会の文化そのものが移り変わりつつあることは確かです。アメリカ人の場合、特に若者は、本よりもテレビやデジタルを使った娯楽の方を好む傾向にあります。その便利さを認めて、新しいテクノロジーで物を読んだり、それを新しい教育道具として利用したりすることを素直に受け入れるべきで

あるかのようにも思えます。しかしながら、1997 年にサン・マイクロシステム(ネットワークのソフ トやサービスを提供する会社)が行った調査/実験 によると、インターネットを使う人が必ずしも文章 等を多く読んだり、知識を深めたりしているという わけではないようです。サン・マイクロシステムが 行ったインターネットに関する調査/実験に協力し た人のうち、16パーセントだけがしっかりと一語一 語文章を読み、残りの人はページにざっと目を通し ただけで、たいていは視覚的な物やキーワードに目 をやるだけで全体を読むことなく次のスクリーンに 進んでしまったと言うのです。ナショナル・ジオグ ラフィックをはじめとするいくつかの団体が 2002 年に行った調査では若者の歴史に関する知識や政治 への関心度に関する驚くべき現実が浮き彫りにされ ています。調査に協力した若者のたったの15パー セントしか世界地図でアフガニスタン、イラクを探 すことができなかったと言うのです。インターネッ ト世代の若者の82パーセントがアメリカの人気テ レビ漫画、『シンプソンズ』の登場人物が住む町の 名前を言えたのに対し、連邦議会の与党の名前を言 えたのは40パーセントだけでした。

次の世代に私たちはどのような世の中を残して 行きたいのでしょうか?世代を超えて残して行きた い最も価値あるものとは一体何なのでしょうか?文 化工芸品、建築物、伝統、などという言葉が私の頭 にまず浮かんできます。自然を保護して残していく 事も大切な事でしょう。世界に平和をもたらすため にボランティアの仕事などに関わる事もとても大事 な事です。その他にも私たちが未来の世代に残して 行きたいものはまだまだたくさんあるでしょう。こ れらの美しいものをずっと残して行くには、未来の 世代がこの世の美、芸術を育み、理解し、鑑賞する ことはもちろんの事、鑑識眼を持ち、しっかりとし た思考が出来ることも必要でしょう。読書は明るい 将来を育むために最も必要な要素のひとつではない かと私は思います。読書を過去のものにしてはなら ないのです。



A letter from the U.S.A. (41) We must not make reading a thing of the past

Harumi STEPHENS

[November 13, 2004]

In September 2004, the National Endowment for the Arts, an independent agency of the federal government established by the United States Congress in 1965, held a session in Atlanta to discuss reading, writing, and publishing at the Southeastern Literary Magazine and small Press Fair. At this session, the agency brought an alarming message to the audience. The agency conducts an extensive survey every 10 years to find out how frequently Americans visit museums and historic sites, go to the theater, listen to jazz and opera, and read fiction, poetry and drama. The most current survey was conducted in 2002. The results showed that Americans are participating less in art-related activities in recent years, and they pointed out that reading, especially, declined sharply among American people.

In 1982, 57 percent of adults said that they had read some kind of literature in the past 12 months. In 2002, the survey showed that only 47 percent said they read some kind of literature in the past 12 months. The decrease is more significant among young people. In 1982, about 60 percent of young adults between ages of 18 and 24 said they read some kind of literature. In 2002, only 43 percent declared that they read some kind of literature. The survey indicated that while young adults showed the steepest decline among all age groups, it also marked a significant decrease in the total number of people who read literature. Young or old, black or white, rich or poor, college graduate or high school graduate, Americans are reading less literature. Will reading become a thing of the past?

It is clear that there is a cultural shift. Americans, especially the young generation prefer television and digital entertainment to books. It seems that we all should simply

accept the new technology and the new source of reading and education for the sake of convenience. However, the study on the behavior of Internet users conducted by Sun Microsystems in 1997 showed that the Internet does not necessarily make people read more or become informed citizens. Sun Microsystems said that only 16 percent of people tested read word for word. The rest scan the page, looking for mostly visuals and keywords, and without reading the whole page, they move on to the next screen. Other surveys conducted in 2002 by various groups such as National Geographic show a startling reality about young adults' historical knowledge and political awareness. Only 15 percent of young adults who were surveyed could find Afghanistan, Iraq or Israel on a map. While 82 percent of the Internet generation could name the hometown in "The Simpsons," a popular cartoon program on television, only 40 percent could say what party controls the US Congress.

What kind of world do we want to leave to the next generation? What would be the most valuable thing that is worth protecting for generations to come? Cultural artifacts, architecture and heritage immediately come to my mind as the things we want to preserve for future generations. Conserving nature is also important. Taking part in volunteer work to help bring peace to the world is very important as well. There are many more things that we need to preserve for future generations. To preserve all of these beautiful things, future generations should not only foster, understand and appreciate beauty and the arts, but should be able to think critically as well. Reading, I think, is one of the most important and fundamental elements for a brighter future. We must not make reading a thing of the past.

美国来信(41)读书不应成为过时的东西

Harumi STEPHENS

[2004年11月13日]

美国全国艺术基金会于 1965 年由美国联邦议会设立,作为独立的联邦政府机关开展活动。在 2004 年 9 月亚特兰大召开的美国东南部文学杂志与小规模出版物展览会的讲座上,该会向前来的听众发出了警告信息。

该政府机关每10年进行一次调查,调查内容有关:美国人上美术馆、博物馆、剧院的频度、听爵士采和歌剧的情况、阅读小说、诗歌、剧本、书籍等情况。最近一次在2002年进行了调查。该调查表明,美国人接触艺术倾向于逐年减少,特别是阅读正在急速减少。2002年调查时,57%的成年人回答"在前12个月中阅读了文学作品"。但2002年的回答仅有47%。并且,其中年轻人阅读的减少率最近很明显。1982年的调查,18岁~24岁的年轻人60%回答读过文作作品,但2002年仅为43%,显示年轻人阅读在急速减少,其他层面人士的阅读也呈明显减少倾向。年轻人、老年人、黑人、白人、有钱人、穷人、大学毕业生、高中毕业生,所有层面的人都在减少阅读。读书就这样过时了吗?

社会文化的确在不断变化。美国人,特别是年轻人, 倾向于利用电视、数字进行娱乐。是否应承认其便捷 性,担然接受其作为新的教育工具,用新技术进行阅读呢:但是,根据 Sun Micro System 公司(提供网络软件及服务)进行的调查、实验,使用互联网的人不一定读很多文章或深入探求知识。对该公司有关互联网的调查实验给予合作的人中,仅有 16%的人认真地逐字逐句阅览文章,其余的人都是一眼掠过,大概只看图象和关键语就进入下一个画面。根据 National Geographic 等几个团体 2002 年进行的调查,显示了年轻人的历史知识和关心政治状况的惊人现实,接受调查的年轻人,仅有 15%说能在世界地图上找到阿富汗、伊拉克。82%的互联网时代年轻人能说出美国人气漫画"Simpsons"的出场人物居住的城镇名称,但能说出联邦议会在野党名称的仅有 40%。

我们将留给下一代怎样的一个世界?希望超越年代,流传下去的最有价值的东西是什么?我脑海中浮现起文化工艺品,建筑物、传统等词语。保护自然,保留自然固然很重要,为世界和平进行义务工作等也很重要,其他还有很多很多应留给下一代的东西。为了把这些美丽的东西流传下去,未来的世代不单能孕育、理解、欣赏美术,而且应有鉴赏力、会思考。我想,读书是孕育美好将来的最重要的因素之一。读书不应变为过时的东西。

[翻译:王菲]

【2004年11月7日】

まだ 15 歳の子供である私には、「遺産」と言われてもあまりピンとこない。それでも思いつく限り、この「未来への遺産」というテーマについて考えてみようと思う。

遺産と言えばすぐに思い浮かぶのは、いわゆる「世界遺産」だ。日本で言えば、法隆寺や白神山地、原爆ドームなどが挙げられる。素晴らしき芸術や保護すべき大自然、また戦争の爪痕と、確かに後世に遺さなければならないものばかりだ。

私も 10 月に修学旅行で白神山地を訪れたが、その美しさにはまったく息を飲む思いだった。そして 是非とも、この美しい景観を保護していかなければ ならないと感じた。

反対に、心無い人びとによって、汚されてしまう 遺産もある。たとえばあの富士山などは、登山者に よるゴミのポイ捨てが多発しているため、「管理不 十分」として世界遺産に登録できないでいるという。

いや、私は何も世界遺産に登録されなければ意味がないと言っているわけではない。富士山が世界遺産でないからといって、汚していいことにはもちろんならないし、誰もその価値を貶める権利など持たない。他の美しい景観も、同様である。

ただ、それらに感動するだけではいけないのだ。 その先のことまで考えるための想像力を持たなければ、法隆寺や白神山地にゴミをポイ捨てすることも、 原爆ドームを前に戦争について反省したものの、ま た戦争を起こすことも、人びとは平気でしてしまう だろう。

だからこそ「人の心を動かすもの」そのものだけでなく、それに対して感動し共感する、という感情を遺していけば、自然と、また自然遺産だけでなく地球全体を、未来への遺産として、私たちは守り、また遺していくことができるだろう。

A Heritage for Future Generations

LI Min

[November 7th, 2004]

Even if called a "heritage," it doesn't appeal much to me as a fifteen-year-old. But to the degree I think of the theme of "heritage to future generations" I offer the following. What comes to mind immediately when I hear the word "heritage" is the so-called "world heritage sites"—Horyuji Temple, Shirakami-Sanchi (the generic name) and the Atomic Bomb Dome (Genbaku Dome) in Hiroshima—among others in Japan.

Preservation of art and nature or scarred reminders of war-time—these are a heritage to be passed on to future generations. In October when I visited the Shirakami-Sanchi on a school trip I was engrossed by its beauty and strongly felt that this beautiful scene must be preserved by all means. Some heritage sites have regrettably been polluted by inconsiderate people. For example, Mt.Fuji has so far not been inscribed on the World Heritage List due to its "inappropriate management." This has in many instances been caused by climbers leaving rubbish behind.

I don't think Mt. Fuji is unappreciated just because it is not listed as a World Heritage site. By the same token, there is no justification for leaving rubbish on and around Mt. Fuji just because it is not on the World Heritage Site List. No one should have the right to diminish Mt. Fuji or any other beautiful scene.

What I want to say is that it is not enough merely to indulge ourselves in getting excited by these scenes and objects, we also need to use our imaginations to think of future possible circumstances. Unless we use our imaginations I am afraid that through indifference we may cause another war—even if we reflect on war when looking at the Atomic Bomb Dome or when throwing away rubbish at Horyuji Temple and Shirakami-Sanchi.

Accordingly, by thinking of the impact on people's imaginations of certain scenes and objects and, further, the feeling of empathizing with them, I think that we will be able to protect and preserve not only nature and our natural heritage but also the whole earth as a "heritage" for future generations.

[Translated by: N. NARITA]

有可能因为我还是一个 15 岁的孩子,对于"遗产"这个概念没有那么深刻的理解。尽管这样,我还是准备针对《给未来的遗产》这个题目来谈谈自己的想法。

说到遗产,首先让我想起来的就是所谓〈世界遗产〉。在日本的世界遗产中有法隆寺,白神山脉,广岛原子弹爆炸遗址等等。那些地方有精美的艺术作品,有应该保护的大自然,还有战争的痕迹。都应该完美无缺地留给后世的重要遗产。

在 2004 年的 10 月,我们中学的修学旅行,去了白神山脉。那里的景色真是令人叹为观止。在感动的同时,我非常想永远地保护好这样的美丽景观。

可是令人遗憾的是,。即使是那座有名的富士山。 也是因为一些不懂得珍惜自然景观的登山者乱扔垃圾 被判定成"管理不足",所以不能被登录成世界遗产。 我并不是说,不是世界遗产,就没有价值。谁都不能把"不是世界遗产"当成理由,去污染富士山,或者能低估富士山的价值。对于别的美丽景色或贵重古迹,也一样。

但是,我们不应该只去为这些景观感动,而应当想到为了与后人共享感动,今天我们该作的事情。,比如说,在法隆寺和白神山脉随便乱扔垃圾,或者一边在广岛原子弹爆炸遗址之前反省战争反省以后,一边发动战争……。

如果我们不仅仅是保护美丽的东西本身,同时也应 该珍惜人们被感动的感情。如果人们能够共享情感的 话,我们就不仅仅是把自然遗产,而是把地球全体当 成对未来的遗产保护下去。



英語で異文化再発見 / "Let's Rediscover Japan"

港区国際交流協会では、英語による「異文化再発見」の会を毎月原則第二または第三土曜日に開いています。

日本について、知っていると思っていても、まだ見落としていることがあるかもしれません。また、海外のことを知ることで、日本のことを知ることもあるかもしれません。

このプログラムでは、毎回、スピーカーが一つの話題を提供します。スピーカーのお話を聞くだけでなく、参加者同士のフリーディスカッションの時間もあります。

興味をお持ちの方、ぜひ一度ご参加ください。新しい発見があるかもしれません。

日にち: 2月19日(土)、3月12日(土)、4月16日(土)午後1時30分~3時30分

(1月は休会)

場 所: 三田 NN ホール スペース D (港区芝 4-1-23)

This program for rediscovering Japan is conducted in English. Meetings are held monthly on the second or third Saturday. Can you fully and confidently express yourself when discussing Japan and your own country? There may be some things you have overlooked or features which you will want to reexamine after hearing someone else's ideas. Meetings include time for free discussion among participants. Everyone is welcome!

Date: Saturdays, February 19, March 12 and April 16 (no meeting in January)

Time: From 1:30 p.m. to 3:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku, Tokyo

「遺産」という言葉を聞くと、多くの人は文化遺産、歴史遺産、世界遺産あるいは遺産相続などを頭に浮かべると思う。

私は観点を変えて、"人"について考えてみたい。「子は天からの授かり物」と古くから言われてきた。この授かり物の子どもを親たちは、健康で明るい元気な子に育ってほしいとの願いを込めて、懸命に育てる。しかし、子は成長するにしたがって、多くは親の思うようには育ってくれないのが現実ではないだろうか。

ここで重要なのは、子どもがだんだん親の手から離れていくまでに親としてやっておかなければならない大きな責務があるということである。何か子どもに問題が起きるたびに、世間では学校での「しつけや道徳教育、生活指導がなっていないから」とよく言われる。しかし、子に対する「しつけ」の責任は親にあるということに気づかなければならない。

「しつけ」は本来、学校や社会での生活に向けて、 子に対して家庭でしておかなければならない、最も 基本的な事柄なのである。学校での徳育・知育など の教育と共に、家庭での教育が欠くことのできない 社会生活のための要素であることを、しっかりとわ きまえた上で、地域の教育力を加味しながら子ども を育てていく必要がある。

中央教育審議会は、教育基本法の改正案に、これからの日本人に必要な教育理念として「公共心」「道徳心」「規範意識」「伝統文化の尊重」「郷土愛」「愛国心」などを掲げている。いずれも戦後教育(第二次世界大戦後)がなおざりにしてきたものである。この理念を根底に、家庭・学校・地域社会が連携し融合して、子どもを立派な日本人、世界人に育てていく必要を痛感する。

社会のルールを守り、人に迷惑をかけずに正しく 生きようとする心を持つ子ども、人の痛みのわかる 子どもは、きっと誰からも好かれ、そして自らの能 力を存分に発揮して、国家や社会に誇りを持って貢 献することができる人に育つだろう。これがやがて、 子孫への大いなる遺産となるのではないだろうか。 そのためにも、子どもは大切に大切に育てなければ ならない。これはわれわれ大人の大きな責務である。

The Heritage for the future

Toru NISHIDA

When we hear the term "heritage" most of us think of cultural heritage, historical heritage, world heritage or the legacy of an inheritance. I would, however, like to look at the term from a different angle—that of "human" heritage. We have said in Japan since long ago that "children are gifts from heaven." Most parents do their utmost to bring up their children ("gifts from heaven") with the hope that they will grow healthy and bright. In reality, however, children do not grow up as parents dream. Today, parents must realize that there are some things that they must do before children leave their protection. It is a very common scene where parents put blame on the school when an accident occurs involving children. They allege that there is a lack of moral education, training for social life, etc. Parents, however, must realize that social training and disciplinary education (shitsuke) for children are the responsibility of parents rather than that of the school. Disciplinary education is the basic education that should be taught at home by parents before children start attending school. Together with moral and knowledge education at school, disciplinary education

at home is an essential factor in bringing up children well, in addition to the educational influence of the community.

In the draft put forward by the Fundamentals of Education Act, the Central Council for Education proposed that the educational philosophy needed for Japanese people in future included: "public mind," "moral mind," "normal consciousness," "respect for traditional culture," "respect for the community" and "patriotism." All of these principles have been neglected in education since the war (World War II). Based on these principles and in coordination with parents, school and the community, children should be brought up as Japanese, respectful and with dignity and as cosmopolitans.

Children who can observe social rules, not cause trouble to others, live truthfully and perceive the pain of others, will be loved and respected by others, and their excellent abilities will greatly contribute to society and the nation. Such character will be an excellent heritage for their descendants and therefore children must be brought up with great care. This is the most important responsibility of our elders.

[Translated by: A. KUSHIMA]

西田 徹

听到「遗产」就会有很多从头脑里浮出「文化遗产、 历史遗产、世界遗产」等等以及遗产的继承等等想法。

我的观点于众有不同、想到的是「人」,「孩子是老 天爷授予我们的礼物」是从古就有此说。接受到孩子 的父母们:总希望孩子能长成一个健康聪敏,活泼的 全面发展的好孩子,拼命的去扶养他们。但是,在孩 子不断长大中,事实是不可能象父母想像中的十全十 美的人。

这里是重要,当孩子渐渐长大成人,从自己身旁走去以前,做父母的认应尽一切责任去教育他们,当孩子出了什么问题时,把责任都推给学校,说「做规矩,道德教育生活指导等等教育的不妥当」这是经常听说的事,应该说,对孩子的「做规矩」(家庭教育)的责任应该是在于父母。

「做规矩」本来是,为了孩子在学校、社会上生活 不困难。家庭教育是不可缺少的,是最基本的事情。 学校是接受德育、智育等的教育,同时家庭教育也是 不可缺的社会的要素。共同也少不了区域的教育的互 相协助。

中央教育议会,对教育基本法修改案提出:从今后,日本人必需接受「公共心」「道德心」「规范意识」「传统文化的尊重」「爱家乡」「爱国心」等等的教育。特别战后教育「第二次世界大战后」更是重要的话题。这个理念的根本是:家庭、学校、地区、社会相互协助融合地教育孩子,把他们培养成正真的日本人、世界人,是必要的事情。

守住社会的规矩,不给人们添麻烦,正常生活,得 痛知痛,成为人人都喜欢的,对社会有用的人,能发 挥自己的能力,给国家和社会有贡献的人人能夸张的 人。这才是我们给子孙留下的一份大遗产不是吗?所 以说我们大家做家长的人应该尽最大的责任去教育自 己的孩子。这是做大人的任务。

[翻译:石井 通惠]



日本語で話す会 / "Let's Chat in Japanese"

港区国際交流協会では、日本語を勉強していても実際に話す機会がない外国人の方、新しく友だちをつくりたい、話題に興味をお持ちの外国人の方を対象に「日本語で話す会」を毎月1回、土曜日に開いています。中級レベルでは身近な話題を中心に、上級レベルでは時事問題を中心にお話を進めます。LCJボランティアスタッフがお待ちしております。ぜひ一度、ご参加ください。

日にち: 2月19日(土)、3月12日(土)、4月16日(土)午前11時~午後12時30分

(1月は休会)

場 所: 三田 NN ホール スペース D (港区芝 4-1-23)

If you do not have any opportunity to speak it out in spite of studying Japanese, or if you want to make friends, and have an interest in discussion/exchange of opinions, you are welcome to join our LCJ, "Let's Chat in Japanese," meeting. We have intermediate and advanced levels. Let's have great fun chatting in Japanese!! Feel free to join us.

Date: Saturdays, February 19, March 12 and April 16 (no meeting in January)

Time: From 11:00 a.m. to 12:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku, Tokyo

South Wind



サウスウィンドの新しい編集員…。これが新人類と言うでしょうか。 Two new members of South Wind's editorial staff.... Are we going to the dogs?



サウスウィンドの副編集長の仕事振り。 South Wind's Assistant Editor at work....

おいしい国際交流

おいしい国際交流実行委員会 実行委員長 ののがき あつこ

このプログラムは、「食べること」そしてその食べ物を「料理する」過程を通じて、在日外国人に日本文化を学んでもらう機会を提供するものです。おいしいおいしいとご飯を食べながらの文化交流ですから小難しいこともなく自然な交流ができ、ひとつのテーブルにさまざまな国からの参加者が集まるので、多文化的な要素が盛り込まれていることも特徴です。調理を通じて友だちもできます。

メニューは、日本の家庭料理の中から、帰国されてからも食材が手に入りやすいようなものや、日本特有の料理、季節感のあるものなどを選ぶようにしていますが、白和えに使う豆腐を裏ごししてからすり鉢でするなど、日本料理のきめの細かい作業を知ることでも、日本文化を学んでもらえるのではないかと思っています。

在日の外国人は、日本のマーケットに足を運んでも乾物や日本特有の野菜など、一体どのようにして食べるのか想像のつかないものも多いそうです。それが、昆布とかつお節で取った出汁とともに調理されて炊き込みご飯になったり、白和えになるのを見ると、参加者はとても興味を示します。調理中に指

をつっこんで味見をする研究熱心な参加者や、時には「豆腐を自宅で作りたいです」や「こんにゃくはどうしてこんなにプルプルしていますか。ゼラチンが入っていますか?」などと、私たちも知らないような質問をする人もいて、実行委員として参加する日本人スタッフたちも逆に勉強になることが多くあります。プログラムの後に「家でも作ってみました」などと連絡をもらうと私たちも嬉しくなります。

レシピ作り、翻訳、食材の買い出し、資料のレイアウト、当日の参加者同伴のお子様のチャイルドケアなど、手間のかかる作業もたくさんありますが、これまで5回には熱意のある優秀な会員がスタッフとして参加してくださいました。また、他委員会や会員の方々からの協力も得て、毎回満足のいく結果を積み重ねてくることができたのだと思います。

在日外国人で日本文化に興味を持つ方は多いようです。そして私自身ももっと日本料理を学びたいと思っています。これからも、会員と参加者が共に日本文化を学びつつ楽しめるプログラムとして続けていきたいと願っています。

Japanese Cooking Program

Japanese Cooking Program Committe Atsuko NONOGAKI, Chairperson

The purpose of this program is to provide foreigners living in Japan with a chance to learn Japanese culture through cooking and eating together. The program is always fun, permitting natural exchange, and the participants can also enjoy multi-cultural exchange and make friends since there are people of various nationalities at each table; this is one of unique characteristics of this program.

The menus are carefully chosen from everyday Japanese home cooking, with ingredients available outside Japan, or with unique Japanese cooking and with sense of the season. We assume that some of the unique cooking processes will give a deeper look into Japanese culture; for instance, to make tofu salad to mix with cooked vegetables, we filter the tofu and pound it in a mortar. Such a process might be interesting to foreigners.

The participants say there are so many foodstuffs in Japanese markets that they have no idea how to cook, like dried foodstuffs and unique Japanese vegetables. And when they see those foodstuffs cooked with basic stock from dried kelp or bonito flakes, or used in tofu salad, they always show great interest. Some people check the taste with their fingers from the bowl, and some other people ask difficult questions such as "How can I make tofu at home?" or "How come konnyaku (devil's tongue) is so springy? Is it mixed with gelatin?" These are stimulating questions for the Japanese staff. We are always happy to hear from the participants that they have tried cooking the foods at home.

Making recipes, translating them, shopping, making the recipe booklet and childcare on the date of the program—those complex tasks are shared by about 10 staff members. During the past five programs, we have been lucky to have hard-working staffs, as well as warm cooperation from other members, to lead the program successfully.

I find there are many foreigners who are interested in Japanese culture and I myself would like to learn more about it. I hope this program will continue to give us a chance to enjoy learning and understanding Japanese culture together.

美味国际交流实行委员会 实行委员长 野々垣 安津子

这份计划书是关于通过食文化以及食品制作,给在 日外国人提供一个学习日本文化的机会。边品尝着美 味佳肴边进行文化交流,会显得比较自然。一张桌子 围坐着来自各国的参加着,多种多样的文化要素凝聚 在一起,便是它的特征。通过食品制作来结交朋友。

这份菜单是选用了日本的家庭料理中,即便是回到了自己的国家也是很容易得手的,选用了具有日本特征以及季节感材料,比方说用豆腐来做的日本料理等。从日本料理的精密制作中不是也能学到日本的文化吗?

在日外国人,即便是去日本的超市,也很难想象出那些干物,以及具有日本特征的素菜等,是如何地去食用。这是因为用从海带,从松鱼节中熬出的汁来做饭,看到用豆腐来做的日本料理,参加者会很感兴趣。在制作料理时,有些热心于研究的参加者会用手

指去粘一些食物来尝尝味道,并说「想在家里试做一下豆腐」,「蒟蒻为什么会这么的有弹性。有没有加入"gelatine"」等等。参加者提出了不少我们回答不了的问题来,这反而给作为实行委员来参加的日本人工作人员提供了不少学习的机会。

计划制定后,当我们得到了参加者在家里已做了尝试的联络后,我们感到非常地高兴。

料理方法,翻译,买食品材料,资料编集,当天参加者中若有带小孩来的,和小孩一起玩等等。虽说繁杂的事情很多,但到现在为至的5次活动,每次都是由热情优秀的会员负责举办的。另外,其他的委员会,会员也出了不少力,每次都得到了满意的结果。

有不少的在日外国人,对日本文化很感兴趣,我本人也想学做更多的日本料理。今后,希望会员和参加者一起边学习日本文化边愉快的制定计划。

「翻译:天海 浪漫]



編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年は、心の痛む事件、事故が相次いだ印象があります。さまざまな地域で自然災害が人命を脅かし、「国民の平和と生活の安定」を大義に掲げて殺戮が繰り返されました。中越地震の被害者が TV インタビューに答えて「命があって儲けもの」と言いながら、瓦礫を片付けていた姿が目に焼きついています。人間は絶望の淵からでもきっと立ち直る力があるのだ、と教えてくれました。

サウス・ウィンド今号の特集は「次世代に受け継いでもらいたいものは何か」をテーマに送られてきたご意見です。人が精魂込めて作り出した文化遺産への共感、生活を守る環境保全への熱意などに加えて、ことばを大切にしようというご意見もあります。昨今の読書離れ傾向を危惧する人もいます。いずれにしても、子どもの教育は大人の最大の責任であり、どんな育て方をするかで人類の未来が決まってしまうと結論づけられています。私は、人命を尊び、どんな災難に遭おうと生き抜く知恵を先人から学び、次世代に伝えたいと考えます。いずれ寿命の果てるときに、「人に生まれてほんとうに幸せだった」とつぶやける人間になりたいと思っています。

次号では「リサイクル」について皆さまのお考えを聞かせてください。日本語の「もったいない」ということばは死語になりかかっています。自分の未だ働ける臓器をリサイクルして欲しいと遺言で伝える人もいます。今、何を「もったいない」と考え、それをどのように再活用したいと思っておられますか?どんなシステムができれば、リサイクルが有効に働くでしょう?活発なご投稿をお待ちしています。

編集長:中野 義子

Post-script

Happy New Year!

I felt that sad incidents succeeded one another during the past year. In many areas, various natural disasters threatened human lives and people continued to kill each other, using the excuse that they were fighting for their nation's peace and stability. I was very impressed by a woman who, amid the debris of her home destroyed by the strong earthquakes in Niigata, answered the TV interviewer, "I am lucky just to have survived...." She encouraged me to believe that human beings retain the power to restore themselves, even in the most desperate situations.

This issue of South Wind features articles concerning our "legacy to the future." In their articles, the contributors emphasized the importance of continuing to appreciate the cultural assets that the authors described and of preserving the natural environment to protect human life. One writer said that we should be more attentive to our own language; another warns against our tendency to read less and less; while a third says that our greatest responsibility as adults is that of educating our children in the right way, as it is our children who will determine the future of our world. What I, myself, would like to learn from our ancestors and to hand down to our children is the wisdom to survive no matter whatever misfortune we may have to bear. And I hope that I can say for my last words, "I was happy to have been born human being."

For the next issue of South Wind, we would like to ask you to contribute your ideas about "Recycling." We Japanese used to say "mottainai" when we were forced to dispose of something that was still useful. This precious word seems to be disappearing from our Japanese vocabulary. Some recycle themselves by willing their organs for transplant to somebody in need. Is there anything that you consider "mottainai" to throw away? How would you like to recycle it? What would you propose in order to create an effective recycling system? We look forward to your contributions.

Editor in Chief: Yoshiko NAKANO

编辑後记

新年好!

在过去的一年中,接连发生了许多让人感伤的事。在很多地方,无数的自然灾害威胁着人类,而人类又以保卫国家和平与安全的名义彼此之间互相残杀。一位在被 Ni i gata 强地震摧毁家园的碎片中辛存的妇女在电视采访中所诉深深打动了我:"我幸运地生存了下来...."她使我相信,即使在最令人绝望的处境中,人类仍会保持恢复自我的力量。

这期南风推出的特写专题,是关于我们"给予未来的遗产"。在这些文章中,作者们强调了继承我们的文化遗产和保护好我们人类赖以生存的自然环境的重要性。一位作家曾说,我们应该更专注于我们自己的语言,另一位对我们的阅读地越来越少的倾向提出了警告。而第三位认为,我们作为成人最重大的责任是用正确的方式教育我们的孩子,因为他们将决定这世界的未来。至于我自己,将从我们的祖先那里学习并且传递给我们的孩子是,不论我们将承受何种不幸,我们都将以我们的智慧生存下去。并且我希望,我能在生命中的最后一刻说"我很高兴曾作为一个人诞生到这世界上来。"|

作为南风的下期主题,我们想知道您关于"再循环"的一些想法。在被迫处理掉一些还是有用的东西的时候,我们日本人常说"mottainai"。而这个宝贵的词好象在从我们的日语词汇中渐渐消失。有些人通过捐出自己的内脏给需要的人使自己的生命得以延续。您有没有想扔掉一些认为是"mottainai"的东西呢?您将要怎么使它再循环?您会提出什么建议去创造一个有效的回收系统?我们盼望着您的来稿。

总编:中野 义子 [翻译:淅马]



投稿募集

港区国際交流協会翻訳委員会では、紙上を意見発表/交換、討論の場として、多様性を認識し、一層深い理解と友好を互いに深め合うことを目的として「South Wind」を発行しています。皆さまの投稿をお待ちしております。なお、掲載については SW 編集部で検討させていただきます。

- ① South Wind に掲載された記事は港区国際交流協会の website に掲載されることもあります。
- ② South Wind に掲載された記事についての著作権は港区国際交流協会に帰属します。
- ③ South Wind No. 46 のテーマ: 「リサイクル」について(投稿締切日=2月20日)

<u>投稿方法</u>: 原稿は原則として日・英・中のいずれかを使用してください。投稿原稿の字数は 1,200 字

以内でお願いします。

宛先: 105-8511 港区芝公園 1-5-25 港区役所 8 階

港区国際交流協会事務局 South Wind 編集部

Fax: (03) 3578-3537 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

Your Contribution is Welcome

By exchanging opinions with other people, who are from different cultures or backgrounds, in "South Wind," we hope we are able to recognize the diversity of our society and deepen our mutual understanding and friendship with each other. Please take full advantage of this opportunity to express your opinions! The Editorial Committee reserves the right to accept, reject and/or edit articles submitted for publication.

- 1. Minato International Association reserves the right to publish all articles submitted for publication in South Wind on their website (http://www.minato-intl-assn.gr.jp).
- 2. Copyrights on all articles submitted for publication in South Wind become the sole property of Minato International Association.
- 3. Deadline for articles on "Recycling" for South Wind No. 46 is February 20.

How to contribute: Please submit your essay written in Japanese, English or Chinese; essays should be 1,200

words or less.

Send contributions to: South Wind Editorial Room; Minato International Association

Minato City Hall 8th Floor, 1-5-25 Shibakoen; Minato-ku, Tokyo 105-8511

Fax: 03-3578-3537 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

募稿

目前港区国际交流协会翻译委员会出版名叫"South Wind"的小报。基于不同国家之文化风俗等,互相提出各种各样的意见,把该报当看发表所交换所想讨论各个意见之场所,进一步加深相互理解加强交流为其目的。欢迎各位积极投稿。将由编辑部研究决定是否采用。

- ① South Wind 里登载的文章也可能在港区国际交流协会的 website 里发表。
- ② South Wind 里登载的文章的著版权是归港区国际交流协会所有。
- ③ South Wind No. 46 主题: 「再循环」(投载截止日期=2月20日)

投稿方法: 原稿原文请用下面的语言:日语、英语、中文,投稿原稿的字在1200字以内,请多关照。

收件地址: 105-8511 港区芝公园 1-5-25 港区区役所 8 楼

港区国际交流协会 "South Wind" 编辑部